

～『5S』と『2M』から始まる世界基準の農業を実践～

<基本情報>

- 所在地：茨城県桜川市
- 取組開始：平成29年

<経営概要>

- 経営面積：12ha
- 構成員：104名
- 主要作物：ブドウ、イチゴ他

<認証GAP>

- 令和元年11月 GLOBALG.A.P.認証取得>



<生産効率の向上に向けた取組とその効果>

- 農作物の収穫手順や方法、農産物の調整手順や出荷方法を事前に説明するとともに、関連施設に手順書やマニュアルを掲示した。特に調整・出荷の際には、作業者によるバラツキを減らすために、適合品と不適合品、規格などを画像で示したことにより、農産物を均一で安心・安全な商品として扱えるようになった。



<GAPに取組んだきっかけ>

- 2021年の東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、本校の農業の技術力と農産物の質の高さを世界に発信できる機会と捉え、令和元年度にブドウでGLOBALG.A.P.認証を取得。また、国際感覚豊かな起業家精神の醸成、さらに世界を意識した農業経営者の育成のためには『輸出』が重要であると考え、令和3年度にイチゴも新規認証を取得。



<地域の内外への波及に向けた取組>

- GLOBALG.A.P.の審査を公開審査とすることで、県内の農業高校教員や農業関係機関の職員が見学を訪れ、県内のGLOBALG.A.P.認証先進校としての役割を果たしている。
- GLOBALG.A.P.認証品目であるブドウをマレーシアへ(R4. 10)、イチゴを台湾へ(R5. 2)それぞれ輸出し、複数のメディアから取り上げられ、認証を活用した新たな活動として紹介。



<GAPの取組の基本方針>

- 『5S』“整理・整頓”、“清掃・清潔”、躰(習慣)による効率化と持続性の確保。
- 『2M』“見える化”と“マニュアル化”による安全・安心で持続的な生産と供給。
- [見える化]農場内での注意喚起事項や危険箇所、各施設の名称や使用方法などを明確化し、透明性のある農場を運営。
- [マニュアル化]誰でも理解し、実践できるように作業の手順書やルールをマニュアル化し、それらを生産関連施設に設置。



<教育機関における地域の牽引役としての貢献>

- GLOBALG.A.P.認証取得を目指す教育機関への指導・助言を実施。
- また、農場で小・中学生に農業体験の機会を提供し、農業の魅力を発信。
- 認証取得により海外輸出を実践したことで、グローバル化に対応した農業教育の実践事例としてGAPの普及促進に貢献。

